

[演題 4] 15 号館におけるユニバーサルサイン計画の提案

今井 理恵、糟谷 佐紀

社会リハビリテーション学科

1. ユニバーサルサインとは^[1]

ユニバーサルデザインとは、「ユニバーサル」が「普遍的な」、「全体の」という言葉を示しているように「すべての人のためのデザイン」を意味し、年齢や障害の有無にかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能なデザインのことをいう。近年、ユニバーサルデザインが注目され、ユニバーサルデザインの考え方にもとづき、事業を推進していこうとする行政の取り組みや、お客様に対するサービス改善を図る企業の取り組みも多い。

また、ユニバーサルデザインの考え方にもとづいて、幅広く、誰にとっても、わかりやすい環境作りにつながると同時に、環境の要素として、美しく調和し、安全快適に必要な情報を入手できるサインをユニバーサルサインという。

2. 研究の背景と目的

私は3年生前期に受講した授業で、神戸学院大学15号館（以下15号館とする）の不便な点、改善すべき点の調査を行った。その際、トイレや階段の場所が非常に分かりづらいという意見が多く聞かれ、15号館をよく利用している社会リハビリテーション学科学生（以下社会リハ学科生とする）でもそれらの場所がよくわからないという事実が判明した。

そこで、本研究では、15号館をよく利用する社会リハ学科生（1年生～3年生）の意見をもとに、15号館内（主に1階、3階、7階）のユニバーサルサイン計画を提案する。

3. 15号館の分かりにくい場所に関するアンケート

ユニバーサルサインを製作するにあたり、社会リハ学科生に入学当初、15号館内でわかりにくかった場所について、332名の社会リハ学科生にアンケート調査を行った。各階別に見ると、1階〔各講義室〕（図1）、3階〔実習支援室〕、7階〔各専門ゼミ室〕と回答した人が多かった。階段（B）は、15号館内に3ヵ所ある階段の中で1番エレベーターホールやオーバルホールから遠い位置にある階段である。

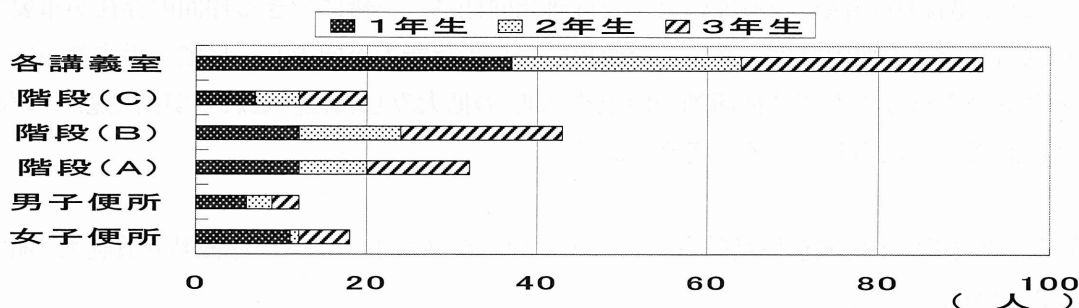


図1 入学当初、15号館内でわかりにくかった場所

4. 15号館のユニバーサルサインの提案

アンケート調査より明らかになった、15号館の分かりにくい場所を示すためのサインを提案する。1階各講義室、3階トイレ、5～7階社会リハ教員研究室を案内するサインを提案する。紙面の都合上、1階講義室のサインについて紹介する。

(1) 分かりにくい原因の考察と改善案の提案

各講義室の案内を示すサインは設置されているが、非常に小さく、目的地の講義室近くまで行かなければ講義室名がわからない。また、サインの色が黒字にオレンジ色と暗闇では見にくい色彩なのもわかりにくい原因ではないかと考える。

そこで、製作するサインは、①エレベーターホールから講義室名がわかるような大きさにする、②サインの下地は、暗闇でも見えやすい色彩となるように白色とする、③文字色は、下地の白色との明度差が大きい赤・青・緑とした。今回は、試験的な掲示のため、1階講義室の中でも利用頻度が高い、151I・151J・151Mの3つのサインを製作した。

(2) サインの製作と掲示

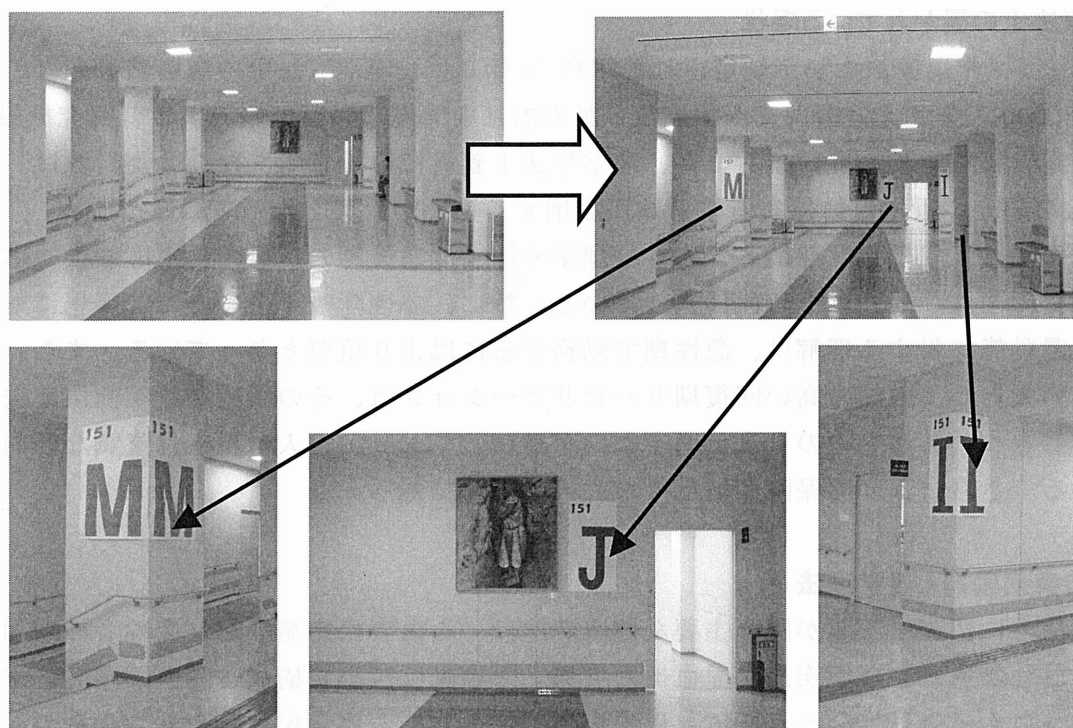


図2 15号館1階各講義室の案内を示すサイン(左から151M、151J、151I)

5. ユニバーサルサインの効果

1ヶ月間掲示を行ったサインの効果を明らかにするために、社会リハ学科生に再びアンケート調査を行った。調査の結果、掲示を行ったサインが「新入生や来訪者には必要であり、私にも必要である」と答えた人が76%と一番高い割合となった。また、学年別に見ると、どの学年も同様の結果だった、2、3年生は「新入生や来訪者には必要であるが、私には必要ない」の割合が、1年生よりも高かった。これは、2、3年生は、1年生に比べ15号館を利用している頻度が高く、すでによく認知しているからだと考えられる。

今回ユニバーサルサイン計画の提案を行い、提案を行った場所以外にも、サインの改善・設置が望ましい場所が多く存在することに気付いた。このことは、15号館だけではなく、大学全体にあてはまる。大学を利用する全ての人が、安全快適に必要な情報を入手できるユニバーサルサインの導入が今後求められる。